

新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について(東京都立大学)

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

○ オンライン授業のための複数回のFDセミナーの実施

主なものとして、オンライン授業ガイダンス(2020年4月14日実施、720名参加)、Zoom講習会(2020年4月21日、22日、24日実施、のべ769名参加)、TA初任者研修(2020年6月18日実施、110名参加)全学FDセミナー(2020年7月30日実施、324名参加)、教育力向上セミナー(2020年10月5日実施、109名参加)、全学FD・SDセミナー(2020年12月4日実施、238名参加)をそれぞれ実施した。7月の全学FDセミナーは前年度76名に対して4.3倍の参加者があるなど、おしなべて高い参加率となった。また、FDセミナーやFD・SDセミナーでは教職員の実践事例や、過去に例のなかった学生による発表・座談会なども実施され、いずれも実用性・満足度の高いものであった。

○ オンライン授業サポートページ(教員向け・学生向けの2種類)の作成・運営

オンライン授業の推進に向けて必要な情報を整理してWeb上で公開した。教員向けには、Zoomやkibaco(本学独自のLMS)の使用法や、教員による事例紹介(20件)、学生からの意見の公開(73件)など、オンライン授業を効果的に実施するためのTipsや情報共有をこまめに更新し公開した。学生向けには、オンライン授業を受講するために必要な情報を一元的に集約して公開した。2021年度中、教員向けサイト約5万、学生向けサイトは約9万件のページビューがあった。うち9割程度は前期のアクセスであり、整理された新しい情報が日々必要とされた前期においてとくに大きな貢献をしたものと考えられる。

○ オンライン授業の実態把握・効果検証のためのアンケートの実施と分析

学生・教員それぞれを対象に2020年7月1日～15日の期間にてWebで実施したアンケートであり、学生からは3,568件、教員からは621件の回答があった。この結果は教学IR推進室と連携して分析し、全学FDセミナーでも報告された。学生については、1年生で60%程度、2～4年生で75%程度、大学院生で80%程度と、オンライン授業への高い満足度が示された。一方で、学生・教員ともに、より質の高いオンライン授業に向けた問題点・改善点も数多く見いだされ、後期以降に向けた改善へ活かされた。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

○ 学生向けPCとポケットWi-Fi貸出支援

経済的に困窮している学生にPCとポケットWi-Fiの貸出支援を実施した。授業期間中も通信環境に係る相談に応じて、条件を満たした学生には随時、貸出支援を実施した。

○ キャンパス内通信環境の整備

2021年3月末までに南大沢キャンパスの1・6号館及び荒川キャンパス校舎棟に光回線を敷設して安定した通信環境を整備した。

・2020年度に都立大学の寄附金を利用して、「緊急支援金(50,000円)」を基準に該当する学生約800人に給付した。

2021年度に文部科学省事業「食に対する支援事業」と都立大学の寄附金を活用して一人当たり1500円分のおこめ券を約1000人に給付した。